

第2章

入園前情報

1. 入園情報の入手方法

日本に長年住む人々は、保育園・幼稚園という保育・教育システムについてある程度の知識・イメージを持っている。そして、それらを当たり前のことと受けとめているが、外国から来て間がない場合、あるいは滞在年数が経過していても、初めての子どもを入園させる場合、多くの戸惑いを感じるであろう。どのように情報を求めているかを探った。

1. 入園情報入手方法 (図2-1)

全体の保護者で見ると、68.7%が「市・区役所」から情報を得ている。ついで「同出身国の友人」19.9%、「日本人の友人」19.5%、「保育園・幼稚園に直接」14.3%と続く。「パンフレット・案内書」、「ボランティア・交流協会」などは少なかった(図2-1の棒グラフの中で、折れ線は保護者全体での数値を表す)。

2. 滞在年数と情報入手方法 (図2-1)

保護者属性の項(p95)にもあるように、滞在年数を4グループに分けた場合(4分割)、3年未満の滞在者には日本の言葉にまだ慣れていない保護者が多く、一方、滞在年数が20年を越えている保護者には祖父母あるいは親の代から在住している場合が多い(82.6%)ことが示されている。このように調査対象者に多様性があることから、情報源に関しても滞在年数を4分割して調べた。「市や区役所を訪ねる」が、滞在年数の経過とともに64.6%~72.4%のように増加傾向にあるが、どの分割においても高い値を示していた。「同じ出身国の友人」は3年未満の保護者に多く、滞在年数の経過とともに少なくなる。「日本人友人」には滞在年数に関係なく、ほぼ同じ割合でたずねていた。「保育園・幼稚園へ直接」は20年以上の滞在者に多かった。

「パンフレット・案内書」は滞在年数の短い人々がより利用している傾向が示され、また「ボランティア・交流協会」には0~3年未満の保護者では他の滞在者に比較して多くたずねていることがわかる。

図には示していないが、0~3年未満の保護者に関して1年毎に区切って調べた結果からは、とくに1年未満では「同出身国の友人」44.2%や「日本人友人」41.2%、あるいは「保育園・幼稚園に直接聞きに行く」29.4%など、多様な方法から情報を得ていることが示されている。さらに「ボランティア・国際交流協会」10.3%などからも情報を得ていることがわかった。

3. 親の日本語能力と情報入手方法 (図2-2)

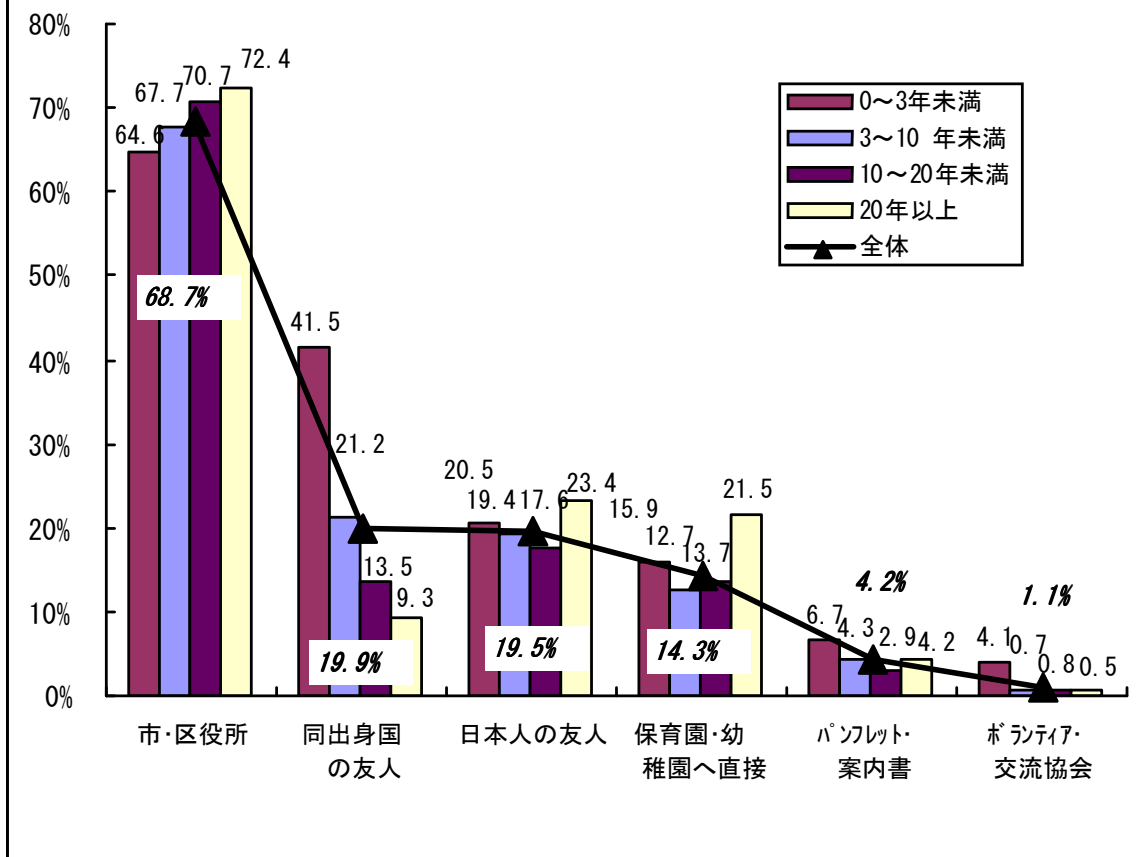
一般には滞在年数が長くなるにつれ日本語の能力は増すが、個人によっても異なる。日本語能力の違いで情報の入手先が異なるかを20年未満の滞在者について調べた。「市・区役所」や「日本人友人」は日本語の得意な保護者ほど高い数値を示した。逆に、未だ不自由な保護者ほど「同国出身の友人」から情報を得る比率が高くなっている傾向が示された。

4. 情報入手方法の「その他」に記載された内容

「日本人の配偶者」(保4男・母33歳・フィリピン・4年)や「親戚」、あるいは「長年日本に住む同出身国の人」(保0女・母38歳・タイ・2年)に聞いていると記述している。また、留学生などは「大学の近くにある外国人の子どもが多く通っている園」(保2女・母30歳・韓国・0年)に直接聞きに行ったと答えている。

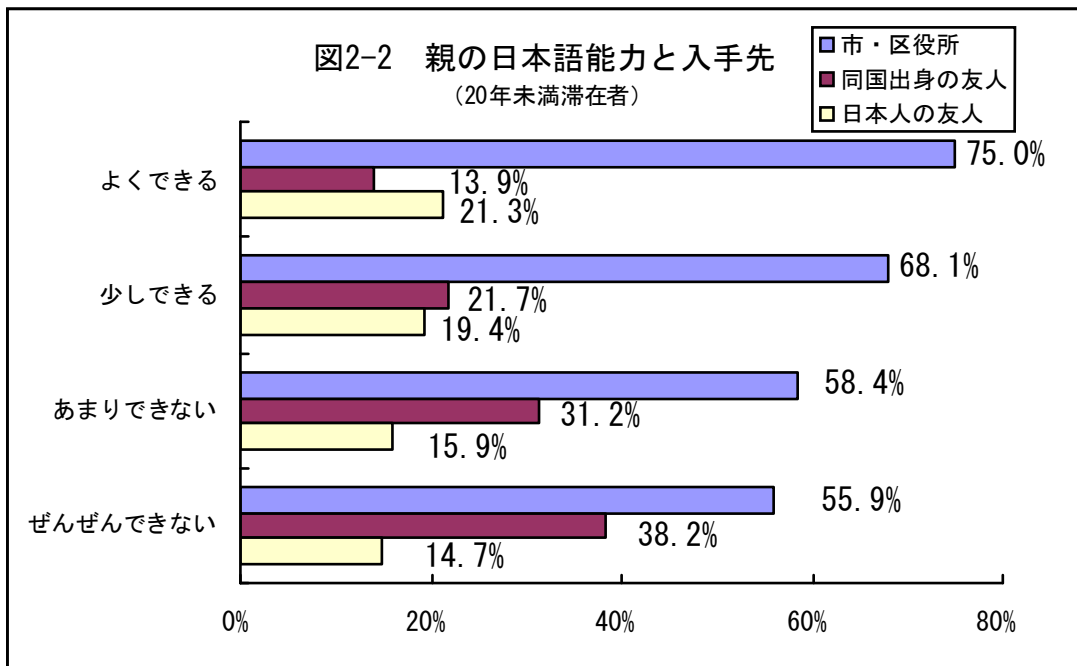
()は保育園・幼稚園の別、学年、性・回答者の続柄、年齢・国籍・滞在年数を表す。

図2-1 滞在年数と入園情報の入手先



N=1841

図2-2 親の日本語能力と入手先
(20年未満滞在者)



N=1596

2. 入園にあたって困ったこと

1. 入園にあたって困ったこと (図2-3)

全体として最も多いのは、働いていないと入園できず、入園していないと働けないという「就業と入園の関係」である。これは日本の保護者も同じであろうが、特に入園条件など出身国とは異なった場合、困難事項と感ずるのであろう。次いで「入園までに時間がかかった」、「親の準備するものが多い」が続く。また「日本語がわからず必要な情報収集が困難であった」などは日本語能力や滞在年数にも関係すると考えられる。また「特に困らない」は31.4%であった。

2. 滞在年数と入園にあたって困ったこと

(表2-1)

日本の言葉や文化に慣れない保護者の多い3年未満で、とくに他の滞在年数者に比較して大きい数値を示したものは「日本語がわからず必要な情報を集めるのが困難」や「入園に必要な書類を揃えるのが難しい」であった。

「就業と入園の関係」で滞在年数が3年～10年の保護者に多いのは、3年～10年でパートタイマーの保護者が困難事項としてあげた比率が他の滞在年数のパートタイマーよりも大きく、また、就労状況としてパートタイマーの占める割合が他の滞在年数の場合よりも多かったためと思われる。「とくに困ることがない」のは10年以上の滞在者に多いが、日本語能力とは直接関係のない結果が得られている。1. 入園情報の入手方法にもあるように、家族からの援助を受けているなどの要因が含まれているものと考えられる。

「入園までに時間がかかった」はすぐに働きたい保護者にとって入園できない場合、困難事項としてあげ、どの滞在年数の保護者も高い数値を示しているが、滞在年数の経過とともに低下している。その他の項目では滞在年数による大きな差異は見られなかった。

3. 入園にあたって困ったことの「その他」に記載された内容

「夫が日本人だから」(保3女・母32歳・タイ・11年)、など配偶者にたずねたので困難はなかったと答えているケースが多かったが、困難事項も多く記述されていた。以下、代表的な内容をあげる。

入園条件わからず

「入園条件がいろいろあることがわからず、後になって具体的な条件について説明を聞けるようになった。聞かない限り、簡単な説明だけで詳しく説明してくれる職員はいなかった」(保1男・母32歳・韓国・0年)などの指摘は参考とすべきであろう。「保育園入園条件は仕事が第1で、言葉の習得は第2の理由なので1年は入園できなかった。自分としては日本語を1日も早く習得して、日常生活に慣れたかったのだけれども一中略一詳しい入園条件が欲しかった」(保3男・母34歳・韓国・2年)のである。条件に関するはっきりとした基準の提示が必要とされよう。

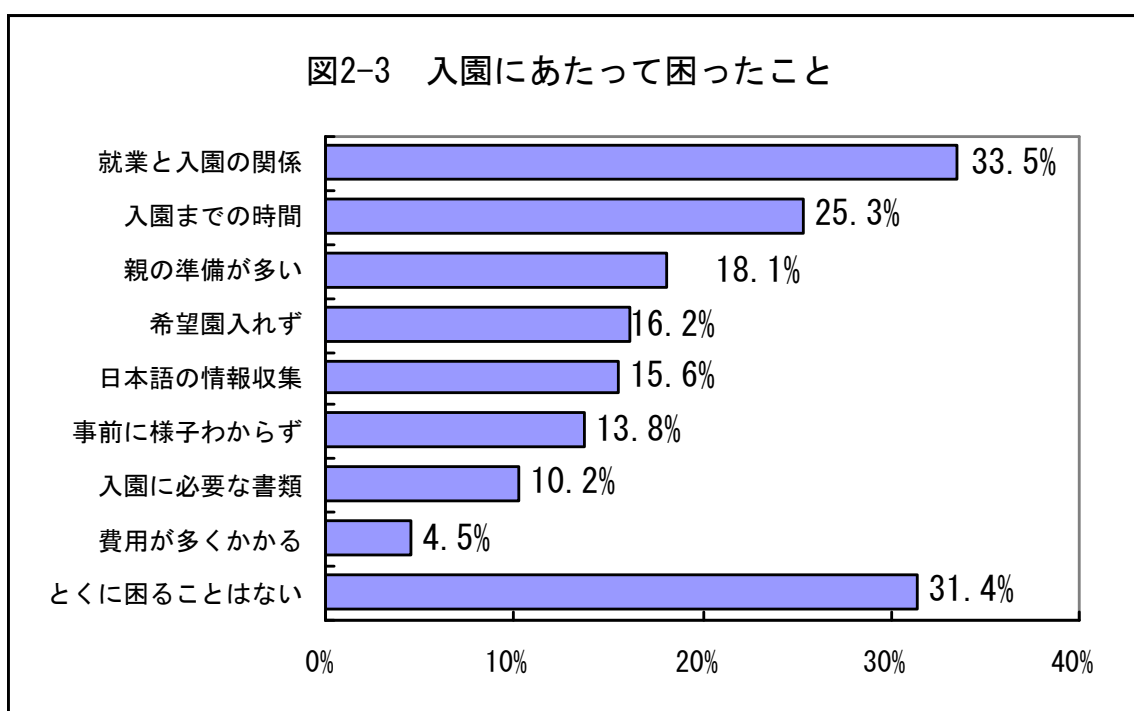
書類作成が難しい・申請時期の問題

「書類作成するものがあまりに多い」(保3男・母32歳・韓国・0年)や「申し込み用紙の書き方が難しかった」(保5男・母38歳・ブラジル・8年)などがある。園としても、母語での申し込み用紙を揃えたり、言葉のわかる人や事情のよく知っている人を紹介するなどそれぞれに工夫をしているようであるが、改善の余地もあるように思われる。「申請時期が過ぎて来日したので、慌てた」(年中女・母34歳・韓国・7年)保護者もいる。

その他

子どもの持ち物に関しては、「どんなものかなど、名前がわからず混乱した」、(保5男34歳・韓国・5年)や「兄弟が同じ保育園に入れない」(保4男24歳・フィリピン・5年)、などが記述されていた。

図2-3 入園にあたって困ったこと



N=1955

表2-1 滞在年数と入園にあたって困ったこと

	0~3年未満	3~10年未満	10~20年未満	20年以上
日本語がわからず情報収集が大変	40.2%	20.6%	5.6%	1.0%
入園に必要な書類をそろえる	18.5%	12.1%	6.2%	6.3%
希望する園に入れなかった	18.5%	15.3%	18.9%	19.2%
入園までに時間がかかった	32.3%	26.3%	24.1%	25.0%
就業と入園の関係	33.9%	39.5%	30.1%	22.6%
様子が事前にわからず不安	12.7%	17.6%	11.8%	9.6%
親の準備が多い	20.1%	20.0%	14.4%	24.5%
費用が多くかかった	5.8%	3.8%	4.1%	7.2%
とくに困ることはない	25.9%	29.6%	38.3%	37.5%

N=1841

3. 入園前に欲しかった情報

1. 滞在年数と入園前に欲しかった情報

(図2-4)

全体として、最も多く望んでいることは、「区役所からの子育てに関する母語による情報ガイド」35.7%である。「地域の保育所・幼稚園・小学校などの所在リスト」31.4%や「地域の病院・保健所・健康診断に関する母語によるガイドブック」28.2%なども多くの保護者が求めている。滞在年数の違いで、情報の必要度は大きく異なる。「役所による母語情報」は滞在年数の短いほど、例えば3年未満では54.4%必要としているが、10年～20年滞在していても、30.9%のように依然多くの保護者が望んでいる。同様に「病院などの母語ガイド」や「子育て通訳サービス」など、母語による情報は滞在年数を経るとともに低下するが、引き続き望んでいることがわかる。一方、「保育園や幼稚園・小学校などの所在リスト」はすべての保護者が滞在年数に関係なく望んでいる。「専門家による家庭訪問」は20年以上の滞在者は7.0%と少ないが、20年未満では13%前後と高かった。

2. 出生順位と入園前に欲しかった情報

一般には入園に際する情報収集では、第1子よりは、第2子以降は比較的容易であろうと考えられる。各項目の必要度を第1子およびその他の出生順位で比較した結果、全項目で第1子に比較して第2子以降で要望の数値は減少するが、大きな変化は見られなかった。「保育園などの所在リスト」が、約10%ほど低下するに留まり、第2子以降でも第1子とそれほど大きく変わることはないことを示していた。これは第2子以降の子どもをもつ保護者で滞在年数の短い保護者が相当数存在する（1年未満では35%、3年未満では24%）ことも一因であると考えられる。

3. 入園前に欲しかった情報の「その他」に記載された内容

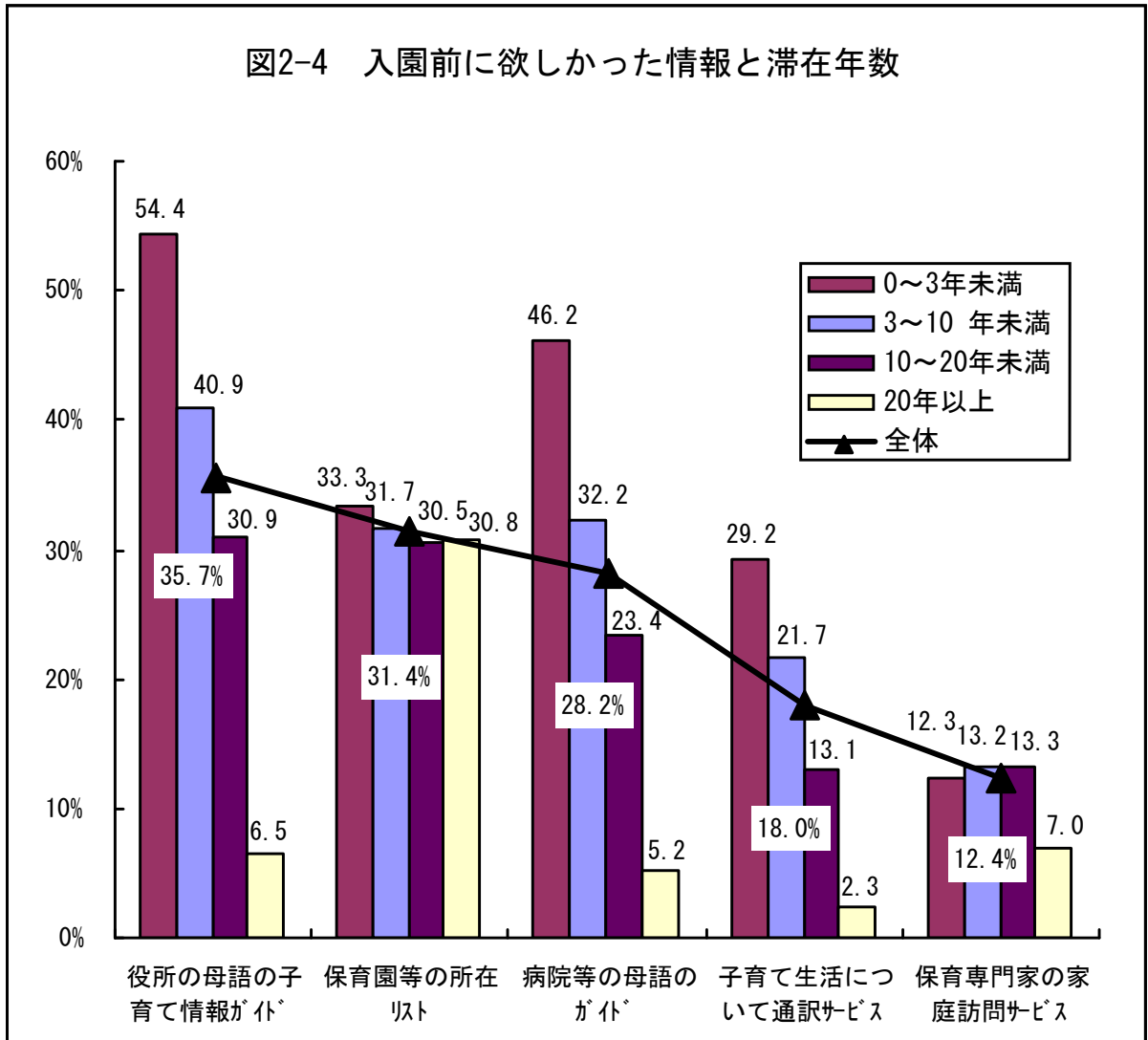
本当に欲しい情報が手に入らず

「必要な情報は区役所で全部もらったが、区役所の職員が言葉がわからず困った」（保5女・母36歳・フランス・1年）や「区役所には母語のわかる人が、いつ行くといえるのか、教えて欲しかった」などは当然の要求であるが、適えるのが難しい状況もあるかもしれない。「いつ入れるのか、いつ空きができるのかの情報欲しい」（保3男・母35歳・韓国・7年）などについても日本の現状を通訳を交えた正確な情報を提供し、納得のいく説明をする必要がある。

園の内容を知りたい

また、「保育所でどんな内容のことをするのかわからない」（保4女・母29歳・日本・3年）保護者が多く、「事前に各保育園に1日入園など体験できたらよい」（保5男・母34歳・朝鮮・34年）と望んでいる。「保育園では何をするのか、何を気をつければよいのかなど情報が欲しい」（保5男・母33歳・ブラジル・2年）に対しては「教育理念や保育スケジュールなどインターネットで流してはどうでしょうか」（保2女・母30歳・韓国・0年）と提案する保護者もいる。「市役所で幼稚園や保育園についてのポルトガル語の説明書が欲しい」（保4女・母29歳・日本・3年）また「外国出身保護者への保育方針や教育方針を」（保2女・父35歳・韓国・0年）の要望には今後の対応が必要とされよう。

図2-4 入園前に欲しかった情報と滞在年数



N=1842

Column : 入園情報などに関する行政への要望

近年さまざまな目的をもって来日し、短期あるいは長期にわたって在住する外国人の数が増加するとともに、その子どもたちの数も急増し、多くの子どもたちは保育園や幼稚園に通っている。第2章では、子どもを日本の園に預ける保護者たちは、どこから、どのような情報を得て通園させるに至ったのか、言葉や習慣の違いを乗り越え、どのようにして困難事項を克服したのかについて探り、多くの要望のあることを知った。しかし、その解決方法には、個々の園の取り組みで済む問題ばかりではないことも示されている。

1 必要な人に必要な情報が伝わらない

多くの外国人が来日するに伴い、市役所や区役所では各国語に翻訳された資料を揃えるようになってきた。しかし今回のアンケート調査の結果から見る限り、それらが、十分に生かされているかどうかは疑問である。滞在年数の短い保護者は、最初に同じ国出身者から情報を得ることが多い。「市や区役所に情報があるという情報」が各国の言葉で表示されていないことが第1の要因である。第2には各国語に翻訳された資料の説明ができる職員がいない、あるいは少ないということがある。「いつ来たら言葉のわかる人に説明してもらえるのか」、「わかる人が1人くらいは常にいて欲しい」と願う。

2 多くの情報を多言語で

「情報が少ない。提供してくれる場所がわからない。日本語だけでなく、他の言語でも情報が欲しい」、「病院、学校、市役所でのトラブルが多い」のも情報の少なさが起因しているのではないだろうか。「市や区の広報誌が多くの言語でなされていたら」と願い、それができない場合は「せめて英語に翻訳されていたら」と願う親もいる。

3 入園資格がわからない

国によって入園の資格が異なっている。「入園資格についてよく説明してもらえなかった」との訴えも多い。次に「就業と入園の関係」が一番の困難事項であったという保護者の記述を示す。「日本のやり方は中国と違って、母親は働いていないと入園できない。それは最初は考えられなかった。中国では子どもが入園できる年齢になったら申し込みばいつでも入園できる。私たち外国人にとっては子どもが入園できないと仕事はできない。なぜかというとは多くは核家族だからで、頼りにできる人はいません」。頼れる友人や親戚の少ない外国人保護者にとってはむずかしい問題を含む。また「詳しい入園条件の説明がなく、日本語を勉強したくてもすぐにはできなかった」と述べた保護者も少なからずいた。

4 入園までに時間がかかる

来日の時期によっては入園に時間のかかる場合もある。「園からは手続きが終わったと言われた」後も、空きを待つ期間が長期間に及ぶこともある。「保育園入園までに10ヶ月くらいかかって、その間、娘は友達がなくてとてもさびしかった。入園手続きがとくに外国人の子どもを対象にして簡単になり、早く入園できればよいと思います」。入園待ちの保護者は多い。

5 行楽地についてのパンフレット：成熟した多文化共生社会へ

子どもはどの国にいようと遊園地には行きたいものである。また親は家族連れ立って行楽地に行きたい。「行楽地についてのパンフレットが母語であれば嬉しい。親が家族を連れて遊びに行けて、家族の仲もよくなる」。外国人保護者の多くが、日本での子育てを余裕をもって楽しいものと感じられる社会になるように願う。